

安保法制は戦後最悪の違憲立法、すぐにも廃止を！ 安保法制廃止を求める請願、本会議で上野議員が賛成討論

上越市議会3月定例議会は3月23日が最終日でした。総務常任委員会で採択され、本会議でどうなるか注目されていた「安保法制（戦争法）廃止を求める意見書を関係機関に提出してほしいという請願」は、採択に賛成した議員が11名、反対した議員は19名で、残念ながら不採択となりました。

採決に先立つ討論には日本共産党議員団の上野公悦議員が登壇しました。



上野議員は、「昨年9月19日、日本列島を揺るがすような国民の反対の声を無視して、（自公政権は）『安全保障関連法』を強行成立させたが、いまなお同法に反対する国民の声は、大きく広がり続けており、さらに新たな運動へと発展し

続けている。私はなんとしても、この法律を廃止し立憲主義を取り戻すためにも、請願者の皆さんや安保法制に反対する皆さんと力を合わせていきたい」と表明した後、賛成理由をのべました。

同議員が賛成理由として挙げたのは、①「安全保障関連法」が憲法九条を蹂躪する戦後最悪の違憲立法であること、②どの世論調査でも6割の国民が「反対」、8割の国民が「説明不十分」と答えていたにもかかわらず強行したのは民主主義に反する、③安全保障関連法によって、日本の自衛隊が戦後初めて、外国の人を殺し、戦死者をだす現実の危険が切迫している、この3点でした。

一般会計予算など20議案に反対 69議案は賛成 日本共産党議員団

この日、市議会では2016年度上越市一般会計予算など提出案件の採決が行われ、それぞれ全会一致や賛成多数で可決されました。

採決に先立つ討論では日本共産党議員団の平良木哲也議員が登壇しました。

安保法制廃止を求める意見書提出に関する請願に賛成した11市議の名前と所属党・会派(敬称略)

- 滝沢一成 (新政)
- 草間敏幸 (新政)
- 飯塚義隆 (新政)
- 小林和孝 (市民クラブ)
- 柳沢周治 (市民クラブ)
- 近藤彰治 (市民クラブ)
- 本城文夫 (市民クラブ)
- 中川幹太 (みらい)
- 平良木哲也 (日本共産党議員団)
- 上野公悦 (日本共産党議員団)
- 石平春彦 (会派に属さない議員)

同議員は「今年もまた行政のリストラといわざるを得ない施策が数多く盛り込まれている。寝具丸洗い乾燥サービス事業の見直し、市民健康診査などの自己負担金の引き上げ、脳ドック助成の廃止、農村地



【オニシバリ】ジンチョウゲ科の常緑小低木。漢字で「鬼縛り」と書きます。3月から4月にかけて黄色の花を咲かせます。木の皮はしっかりしていて、ちぎれないそうです。吉川区竹直にて撮影しました。



七輪使って小豆煮る

市内山間部で19日、七輪の上で圧力鍋をかけ、小豆を煮ているお母さんに会いました。いい香りがしました。このお母さんいわく、「明日来なればぼたもちあげるのに…」。あ～あ、残念でした。

域にある宿泊施設などの休止や縮小など、新年度も枚挙にいとまがありません。これら一つひとつが、どれもこれまでの市民の願い、要望をかなえる形で実現してきたものであるだけに、次から次へと切り捨てを強行する姿勢は断じて認めることができない」と市民サービス切り捨てを批判しました。

同議員はまた、「いつの間にか大幅に建設費がふくれあがった(仮称)厚生産業会館や水族館の建設事業のほかに、いくつもの箱物を作ろうという予算になっている。その多くは市民生活が厳しくなっている中で、負担を軽くし、行政サービスを充実させることよりも優先すべきものではない。まず、各種の利用料や保険料の引き下げ、助成制度の拡充などで市民の暮らしをあたため、だれもが安心して暮らせる町にすることが、今求められている最大の行政課題だ」と主張しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1750 2016.3.27

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三九八回

せりご飯

春がやってきて、母の動きが活発になってきました。特に天気の良い日は家の中でじつとしていられないようです。冬場、ほとんどコタツに足を突っ込み、寝てばかりの姿を見ることが多かっただけに、何となくうれい気分です。

この間の青空が広がった日、私は午前大島区へ出かけ、午後二時近くに地元事務所に戻ったのですが、家族から、「ばあちゃんがお昼近くになって自転車で乗ってどこかへ行ったようだ」と聞きました。気温が十四、五度くらいに上がっていて、日が照れば、上着を脱ぎたくないような陽気でしたから、母も出かけたくなったのでしょうか。

家に行くとき、コタツの上のテーブルの隅にメモ書きが置いてありました。小さな紙切れにひらがなで「ふきのとうをとりに行ってきます」と書いてあります。数日前、母が作ったふきのとうの酢漬けが美味しかったのでほめたのですが、私だけでなく、他の人からもほめられたのかも知れません。気分をよくし、もう一度作りたいたいと思ったのでしよう。

母の行く場所はだいたい見当がついていましたから、車に乗ってさがしてみることになりました。車を走らせ、目的地が近づいてくると、前方から一生懸命自転車をこいでいる人の姿が目に入りました。母です。私の顔を見るなり、「ふふふ」と笑った顔になりました。思い通りの収穫があったのだなど直感し、自転車の後ろのかごを見ると、母が持つて行った袋が大きく膨らんでいました。

家に着いて、母が降ろした荷物の中身を見たら、フキノトウよりも「せり」がたくさ

ん入っていました。母によると、最近、NHKテレビで、春に採れる「せり」を利用した「せりご飯」が紹介されたといっています。母は、「春一番に採ってきたがすけ、『せり』にはビタミンCとか何とかがいっぱい入っていて栄養があるてがど。葉っぱだけでなく、根までみんな食われる。店で売っているでっけえがよりのうかい」そういって「せり」を袋から出しはじめました。そして母は、「せり」はよく洗い、「さつと湯に通す」のがいんだともいいました。その方が栄養もあるし、「せり」ならではの春の香りが漂うのだそうです。コタツのところにあつた母のメモではフキノトウのことしか書いてありませんでしたが、どうやら、はじめから「せり」を採ることも目的にして出かけたようです。

その日の夜、母は「せり」が入ったご飯を初めて作ってくれました。「さつと湯に通す」のがいんだと言った割には、「せり」は緑色をしていませんでしたから、ゆで過ぎたか、それともご飯の釜の中で保温をしていて、色がさめたかどちらかでしょう。でも「せり」の味がご飯によくしみ込んでいて、とても美味しかったです。

翌日、仲のいい友達ばかりの会議がありましたので、「せりご飯」をパックに入れて持参しました。「せり」の香りがするかどうか、味はどうか、感想を聞きたかったからです。じつは私は嗅覚の方はいまいちなのです。パックをまわすと、「ふたを開けたらたんに『せり』の香りがするね」「初めて食べるけど、うまいわね」などの感想を寄せていただきました。

きょう三月二十七日は母の誕生日です。満九二歳になりました。母は最近、何事に取り組むにしても意欲的です。特に料理は、新しい情報を得ると、すぐに自分でも作ってみたいくなるようです。ひよつとすると、「せりご飯」に続く何かを、すでに考え始めているかも知れません。

想いを集めて、次世代に繋ぐ地域づくり

吉川コミュニティプラザで20日、「よしかわ地域づくりシンポジウム」が行われました。主催は吉川公民館とまちづくり吉川です。約40人

の方が参加しました。

今回は「想いを集めて、次世代につなぐ地域づくり」がテーマ。3人のパネリストがそれぞれの分野での取組の中から、今後につながる発言をしました。

まちづくり吉川の加藤大助会長は「吉川に住んでいる人のつながりを作りたい。吉川は酒米・山田錦の生産の北限。酒まつりは新たな味付けが必要だ。区内には杜氏の記念碑が9つもある。吉川の歴史や文化を掘り起こして区内外にアピールしていきたい」と今後の抱負をのべました。

越後よしかわやったれ祭りの2015年度実行委員長の大瀧健彦さんは、「やったれ祭りの稲穂竿灯と奉納の儀式は、コメづくりのふるさと吉川をイメージして考案された。地域に根差し、地域の協力なしにはできない。多くの人とのつながり、特に子どもたちとのつながりを重視している」と振り返りました。

東京で弁当屋をやってきた矢澤雄一郎さんは、「どうやってこの地で生きていったらいいのか。田んぼ、畑、山菜など今あ



るもので勝負したい。ロケ弁を作った8年、2年ほど前から安定してきた。将来的には米粉の活用を考えたい」と発言して注目されました。

今回のシンポでのコーディネーターは法政大学の小島聡教授。コメンテーターとして登壇したのは田中勉教授でした。

小島教授の話で印象に残ったのは、「地域づくりのためには区ごとの細かいデータが必要だ。情報なくして参加なし。データブックを作るべきだ」という言葉でした。大事な指摘です。田中教授からは、「津軽では女性5人集まって、自分たちで出資し、自分たちが働く組織を作り、カフェをやり、クッキーも作っていた。何でもいから、やってまえ精神で頑張っている。素敵な吉川をもっと素敵な吉川に」などと親しみを込めてアドバイスをいただきました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μ Sv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月16日(水)	3月23日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.043	0.047
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.057	0.053
東頸消防署	0.060	0.057
高士分遣所	0.040	0.050
名立分遣所	0.053	0.050

春よ来い

第三九八回

せりご飯

春がやってきて、母の動きが活発になってきました。特に天気の良い日は家の中でじつとしていられないようです。冬場、ほとんどコタツに足を突っ込み、寝てばかりの姿を見ることが多かっただけに、何となくうれい気分です。

この間の青空が広がった日、私は午前大島区へ出かけ、午後二時近くに地元事務所に戻ったのですが、家族から、「ばあちゃんがお昼近くになって自転車に乗ってどこかへ行ったようだ」と聞きました。気温が十四、五度くらいに上がっていて、日が照れば、上着を脱ぎたくないような陽気でしたから、母も出かけたくなかったのでしょうか。家に行くとき、コタツの上のテーブルの隅にメモ書きが置いてありました。小さな紙切れにひらがなで「ふきのとうをとりに行ってきます」と書いてあります。数日前、母が作ったふきのとうの酢漬けが美味しかったのでほめたのですが、私だけでなく、他の人からもほめられたのかも知れません。気分をよくし、もう一度作りたいたいと思ったのでしよう。

母の行く場所はだいたい見当がついていましたから、車に乗ってさがしてみることになりました。車を走らせ、目的地が近づいてくると、前方から一生懸命自転車をこいでいる人の姿が目に入りました。母です。私の顔を見るなり、「ふふふ」と笑った顔になりました。思い通りの収穫があったのだなど直感し、自転車の後ろのかごを見ると、母が持って行った袋が大きく膨らんでいました。家に着いて、母が降ろした荷物の中身を見たら、フキノトウよりも「せり」がたくさん入っていました。

母によると、最近、NHKテレビで、春に採れる「せり」を利用した「せりご飯」が紹介されたといっています。母は、「春一番に採ってきたがすけ、『せり』にはビタミンCとか何とかがいっぱい入っていて栄養があるてがど。葉っぱだけでなく、根までみんな食われる。店で売っているでっけえがよりのうかい」そういつて「せり」を袋から出しはじめました。そして母は、「せり」はよく洗い、「さつと湯に通す」のがいんだとも言いしました。その方が栄養もあるし、「せり」ならではの春の香りが漂うのだそうです。コタツのところにあつた母のメモではフキノトウのことしか書いてありませんでしたが、どうやら、はじめから「せり」を採ることも目的にして出かけたようでした。

その日の夜、母は「せり」が入ったご飯を初めて作ってくれました。「さつと湯に通す」のがいんだと言った割には、「せり」は緑色をしていませんでしたから、ゆで過ぎたか、それともご飯の釜の中で保温をしていて、色がさめたかどちらかでしょう。でも「せり」の味がご飯によくしみ込んでいて、とても美味しかったです。

翌日、仲のいい友達ばかりの会議がありましたので、「せりご飯」をパックに入れて持参しました。「せり」の香りがするかどうか、味はどうか、感想を聞きたかったからです。じつは私は嗅覚の方はいまいちなのです。パックをまわすと、「ふたを開けたらたんに『せり』の香りがするね」「初めて食べるけど、うまいわね」などの感想を寄せていただきました。

きょう三月二十七日は母の誕生日です。満九二歳になりました。母は最近、何事に取り組むにしても意欲的です。特に料理は、新しい情報を得ると、すぐに自分でも作ってみたいくなるようです。ひよつとすると、「せりご飯」に続く何かを、すでに考え始めているかも知れません。



切実な願い次々出されにぎやかな「囲む会」

市内各地で開催している「橋爪法一を囲む会」で市民のみなさんから切実な願いや意見が次々と出されています。ここ10日間ほどの期間に開催した「囲む会」の中で出された声の一部を紹介します。

- ◆「(集落用の)除雪機があってもオペレーターがいなくて困っている」
- ◆「街灯のLED化を進めたいが市の補助が少ない。もう少し増やせないものか」
- ◆「福島へ行ってきたが、思っていた以上に、遠く離れたところでも除染をしている。柏崎刈羽原発の再稼働は絶対させてはならない」
- ◆「合併したら、(中心部に)だんだん吸い上げられている感じがする。見えない格差、負担が生じているのではないか」
- ◆「高齢化が進み、消火栓の管理ができなくなってきている」
- ◆「長野県栄村のような下駄ば

きヘルパー制度をつくってもらえないか」

- ◆「ここ数年、総合事務所職員で知らない人が多くなった気がする。もっと地元顔が知られていて、地元のことをわかる人を増やすべき」
- ◆「温浴施設は老後の最大の楽しみだ。赤字になったとしても地域福祉の視点に立って閉鎖しないようにしてほしい。赤字だといって撤退するようでは困る」
- ◆「冬場の暮らしが定住のネックだ。冬だけ平場で生活できるところが欲しい」
- ◆「若い人の定住を言っても、働き口がなければ絵に描いた餅だ。若い人の雇用の場確保に全力をあげてほしい」

※写真はいずれも板倉区にて撮影。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月16日(水)	3月23日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.043	0.047
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.057	0.053
東頸消防署	0.060	0.057
高士分遣所	0.040	0.050
名立分遣所	0.053	0.050